

自己紹介

田口信教（タグチ ノブタカ）生年月日 1951 年（現在 61 歳）愛媛県生まれ、広島育ち、鹿屋市在住（鹿屋体育大学開学以来在籍 30 年） 趣味：水泳 読書（雑学系）、旅行

学歴

広島修道大学大学院商学研究科商学専攻修士課程修了
アメリカ・インディアナ州立大学に在外研修（国費留学、2 年間）
オーストラリア国・キャンベラ州立大学に在外研修（国費留学、1 年間）

職歴

昭和 52 年～59 年 建設会社の(株)フジタに勤務（営業・スポーツ施設の企画）
昭和 59 年 4 月 鹿屋体育大学体育学部講師
平成 3 年 4 月 鹿屋体育大学教授
平成 15 年 4 月 鹿屋体育大学 海洋スポーツセンター長（～平成 17 年 3 月）
平成 16 年 4 月 鹿屋体育大学 学長補佐 附属図書館長（～平成 18 年 7 月）
平成 20 年 4 月 体育学部スポーツパフォーマンス系主任（～平成 22 年 3 月）
平成 23 年 4 月 スポーツ・武道実践科学系主任（現在に至る。）

社会における活動等

昭和 52 年 4 月 文部省 スポーツ功労特別指導員（～平成 10 年度）
昭和 52 年 4 月（財）日本水泳連盟・競泳委員 現在は会賓（～平成 24 年 3 月）
昭和 58 年 4 月（財）日本体育協会・ロス五輪強化コーチ（～昭和 59 年 3 月）
昭和 63 年 4 月（財）日本オリンピック委員会・強化コーチ（～平成 5 年 3 月）
昭和 63 年 4 月 文部省 保健体育審議会臨時委員（～平成 3 年 3 月）
昭和 63 年 4 月（財）鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団評議委員（～現在）
平成 3 年 4 月 鹿児島県生涯学習審議会委員（～平成 10 年 3 月）
平成 13 年 4 月 愛媛県スポーツ振興審議会委員（～平成 25 年 3 月）
平成 14 年 4 月（財）愛媛県体育協会 スポーツアドバイザー（～平成 16 年 3 月）
平成 15 年 4 月 鹿児島県スポーツ振興審議会委員（～平成 25 年 3 月）
平成 16 年 4 月 学校法人葵会学園 千葉・柏リハビリテーション学園顧問（～平成 23 年 3 月）
平成 17 年 4 月 鹿児島大学／(株)鹿児島 TLO 取締役（～平成 25 年 3 月）
平成 21 年 4 月 学校法人修道学園広島修道大学 客員教授（～平成 25 年 3 月）
平成 19 年 1 月 日本放送協会九州地方放送番組審議会委員（～平成 22 年 12 月）
平成 21 年 4 月 おおすみ FM ネットワーク番組審議会委員（～平成 25 年 3 月）
平成 24 年 1 月 南日本新聞社 客員論説委員（～平成 24 年 12 月）

賞罰

昭和 47 年 9 月ミュンヘンオリンピックでの金メダルの功績による受賞
総理大臣・銀杯賞 文部大臣・スポーツ功労賞 日本最優秀スポーツ賞（読売新聞社）
朝日スポーツ賞（朝日新聞） 最優秀スポーツ賞（中国新聞社）
愛媛新聞社賞・スポーツ賞ホワイトベア・スポーツ賞（デイリースポーツ）
その他多数受賞
昭和 62 年 5 月 Honor Swimmer を受賞 国際水泳殿堂入（アメリカ）
平成 14 年 6 月 愛媛県西条市 名誉市民賞

スポーツ競技者としての業績概要

1968年の第19回メキシコ大会から連続3回、オリンピックに出場。その間、新しい平泳ぎのキックやスタート方法を考案するとともに、流体力学を取り入れたペース配分を考案し、1972年の第20回ミュンヘンオリンピックで世界新記録を樹立し、優勝。アジア大会や世界選手権など16回の国際大会に日本の代表選手として参加し、世界新記録を2回樹立。その他多数の大会記録や日本新記録を樹立。

スポーツ指導者としての業績概要

1977年～1998年、文部省の特別功労指導員として全国各地の都道府県に出向き水泳指導を行う。1977年から日本水泳連盟の競泳委員会委員として日本代表選手の指導にあたる。アメリカ遠征のインダスヒルズ国際大会やサンタクララ国際大会などの海外遠征を指揮。海拔1800mのコロラドスプリングス市と海拔4300mのパイクスピークの高さを交互に利用する高地トレーニングを提案。参加選手全員が自己ベストを更新、多数の日本新記録を樹立することに貢献。

1978年(財)日本体育協会のロサンゼルスオリンピック担当強化コーチに就任。最も優秀な選手を育成したコーチが五輪コーチに就任できる制度の確立に働く。本学に就任後、日本記録の樹立者を多数育てあげた。最も著名な選手の一人が、アテネオリンピック金メダリストの柴田亜衣選手。彼女は2006年以降、日本オリンピック委員会強化スタッフの委嘱やスポーツ振興基金の支給を受ける指導者として活動している。

スポーツトレーニング装置と用具の開発の業績概要

1983年、世界で初めての加減圧可能流水プールを提案し、文部省より実験装置が認められた。1985年スイムミラーを考案し、水泳指導用具を三菱化成工業と共同で商品化。また、泳法指導パネルやスイムカレンダー等もフィットマーク㈱と商品化した。「溺れ監視システム」(2007年)、「スクリュー付き具」(2008年)を考案し、特許査定を受ける。(独)科学技術振興機構から「水中駆動型脚動式泳具」に関する開発研究費を受給し、商品化を模索中。

スポーツクラブの企画と運営実績概要

水泳の初心者指導に熟練指導者を必要としないマニュアル方式を提案、人件費の大幅な削減を可能とした運営方法を企業に示し、施設運営のアドバイスを行っている。

スポーツ解説と啓蒙活動の業績概要

1982年からNHK教育番組の水泳教室や水泳競技会等で解説。1984年世界で初めて、レース中の水中映像を放送できるように、NHKと日本水泳連盟に交渉し、その仕組みを作り、水泳の魅力と泳法の解説に貢献。

1984年第22回ロサンゼルス・オリンピックの水泳競技の報道解説者。

1996年NHK教育番組・視点論点にて「トップ選手の条件」や、1997年「競技施設の活用方法」の提言など、マスメディアでの解説多数。

外部資金の受け入れ実績概要

1988年より、鹿児島大学医学部との共同研究「特殊環境下における身体の影響研究」において、炭酸ガスの影響と効果、血液中の酸素量が増加する現象に着目し、疲労回復だけでなく、競技能力向上の使えると考え、炭酸ガスの入浴剤を製造している花王栃木第一研究所と共同研究を行う。

その他、スポーツ教室を運営する多数の企業と新しいスポーツ指導方法の共同研究を行っている。

スポーツ研究者としての学術業績概要

○ 書籍関係総数 14 冊と DVD ビデオ 9 巻

『水泳』旺文社（単）1984 年/『がんばる子の育てかた・スイミング子育て論』（単）旺文社 1984 年/『スイムビデオ』全 4 巻 NHK サービスセンター（単）1984 年/『水泳ビデオ』全 5 巻 1989 旺文社（単）1989 年/『水泳入門』成美堂出版（単）1987 年/『腰痛者のための水泳教室テキスト』環境工学社（共）1994 年/『関節症者のための水泳教室テキスト』環境工学社（共）1995 年/『リウマチ症者のための水中運動教室テキスト』環境工学社（共）1995 年/「Added mechanical and physiological loads during swimming with a drag suit.」『Swimming Science V』 Human Kinetics Books（共）1988 年/『スポーツ医科学』榊杏林書院（共）1999 年/『身体活動と生活習慣病』（株）日本臨牀社（共）2000 年/『高等学校・保健体育』（文部科学省検定済教科書・保健体育科用）（株）第一学習社（共）2002 年/『体育科教育』大修館書店 2002 年/『建築工業調査会ベース設計資料』公園・体育施設編（共）1993 年/『金メダルの壁』アートヴィレッジ（単）2006 年/『スポーツの百科事典』丸善株式会社（共）2007 年

○ 原著論文 36 編のうち海外投稿論文 4 編、代表者として学会発表論文 7 編

○ 代表者報告書 6 編

1988 年から 1993 年まで、文部省・特定研究費受入実績報告書。特殊環境下でのスポーツ選手育成のための生体の影響と競技力向上のシステムの解明を行う事を目的に鹿児島大医学部(内科、整形、リハビリ科、耳鼻科、眼科)と共同研究を 6 年間、研究者代表として実験を継続した。

○ 教育研究推進費(翻訳研究報告書)

1997 年度翻訳研究報告書として、教育研究推進費（学長裁量経費）

カナダナショナルコーチ制度の分析・解析「Course Conductor Manual and Coach Training Diary」国家コーチング認定プログラムコース指導者マニュアル：レベル 1 理論・レベル 2 理論・レベル 3 「理論の翻訳を行い研究者代表として報告した。

○ その他啓蒙書、新聞雑誌やマスメディア等への持論掲載原稿多数

スポーツ施設や設備の論文「学校プールのあり方と利用」『教育と施設』文教施設協会、「魅力あるプールをめざして」「建築工業調査会」ベース設計資料。主な連載コラムに 1978 年から『月刊スイムライフ』に「水を楽しむ」1 年間（月 1 回）、『月刊体育施設』に 1985 年から 22 年間（月 1 回）の連載を続ける。東京新聞・中日新聞に「放射線」（週 1 回：2004 年 7～12 月）。日本経済新聞「SPORTS 健康学」（週 1 回：2000 年 8 月～2001 年 3 月）。読売新聞（毎回オリンピックの水泳解説）。朝日新聞社に、かごしま歳時記：2007 年～1 年間（月 1 回）。2012 年度より南日水新聞の客員論説委員（論点：1 年間月 1 回）に掲載と、スポーツの魅力や有用性の理解を深めるための原稿を多数、マスメディアに掲載し続けている。

スポーツの持つ魅力への理解を深め、その普及を図るべく、全国各地で講演活動を行っている。